

羅臼岳登山における携帯トイレ利用促進の取組結果

平成20年度第2回知床国立公園利用適正化検討会議 資料. 4

1. 羅臼岳における携帯トイレに対する登山者の意識調査結果

<調査方法>

- * 岩尾別登山口において平成20年7～8月に下山者に対しアンケート調査を実施。
- * アンケート作成は、北海道大学大学院の愛甲哲也准教授と庄子康准教授に指導及び協力を依頼。
- * 属性、携帯トイレの認知、所持、使用及び対策のあり方について質問。
- * 9日間で348通を回収、有効回答は338通。

<調査結果>

回答者の75%が初めての羅臼岳登山であった。
道内からの訪問者は全体の27%、関東圏からが31%であった。

回答者の羅臼岳登山回数

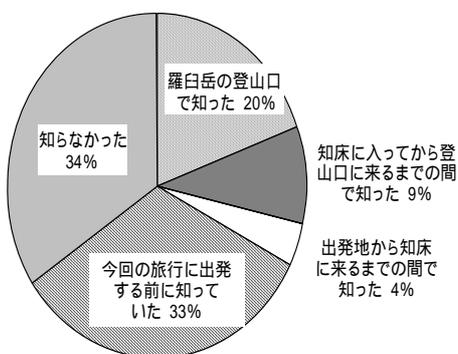
羅臼岳登山回数	回答数	%
一回目	254	75.6
二回目	47	14.0
三回目	7	2.1
四回目	6	1.8
五回目以上	22	6.5
合計	336	100.0
不明	2	-

回答者の出発地域別

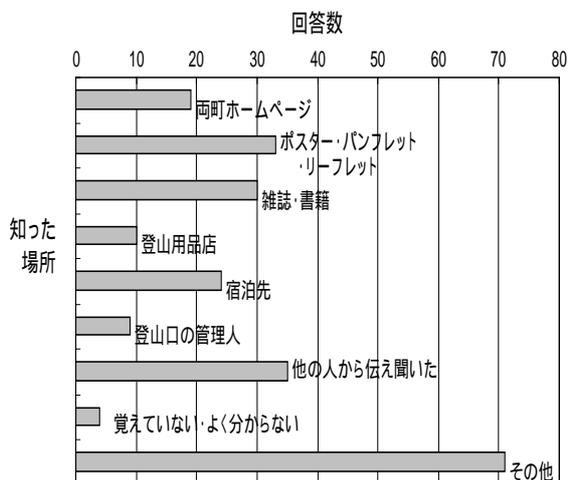
地域（出発地）	回答数	%
海外	4	1.2
関東	104	30.8
九州・沖縄	3	0.9
近畿・四国・中国	63	18.7
東海・信越	45	13.3
東北・北陸	26	7.7
北海道	92	27.2
合計	337	100.0

回答者の3分の2は今年度の知床連山での携帯トイレの取り組みに関して、事前に情報を得ていた。情報を得た場所から考えて、事前の告知が効果を挙げていると推察される。

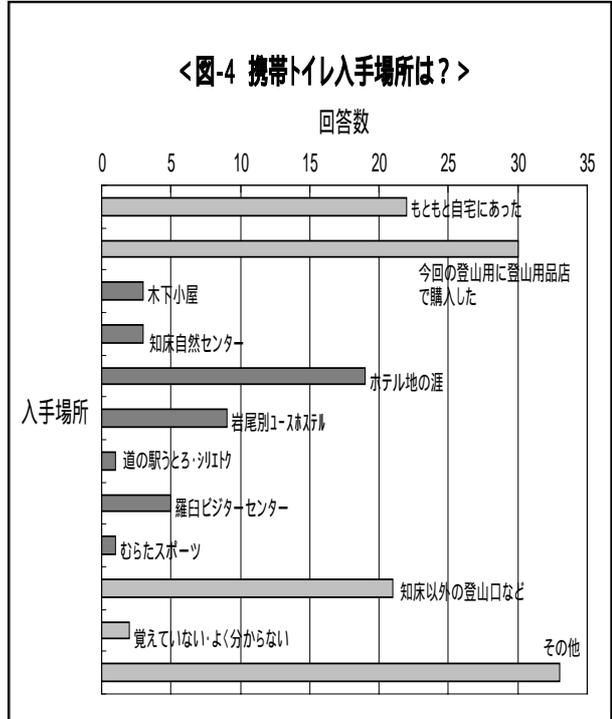
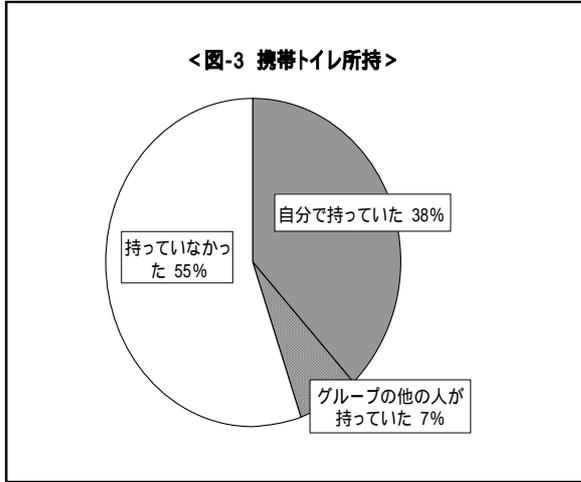
<図-1 羅臼岳で携帯トイレの使用の呼びかけを知っていましたか？>



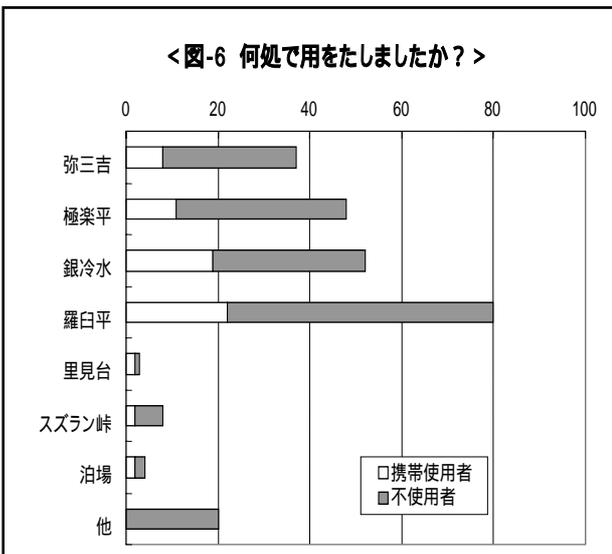
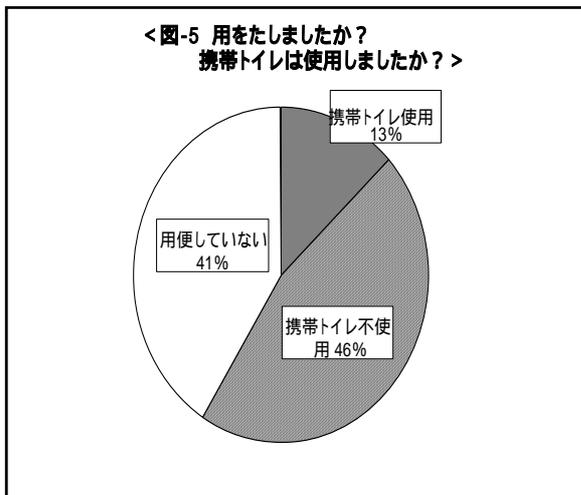
<図-2 羅臼岳で携帯トイレの利用の呼びかけがある事を知った場所は？>



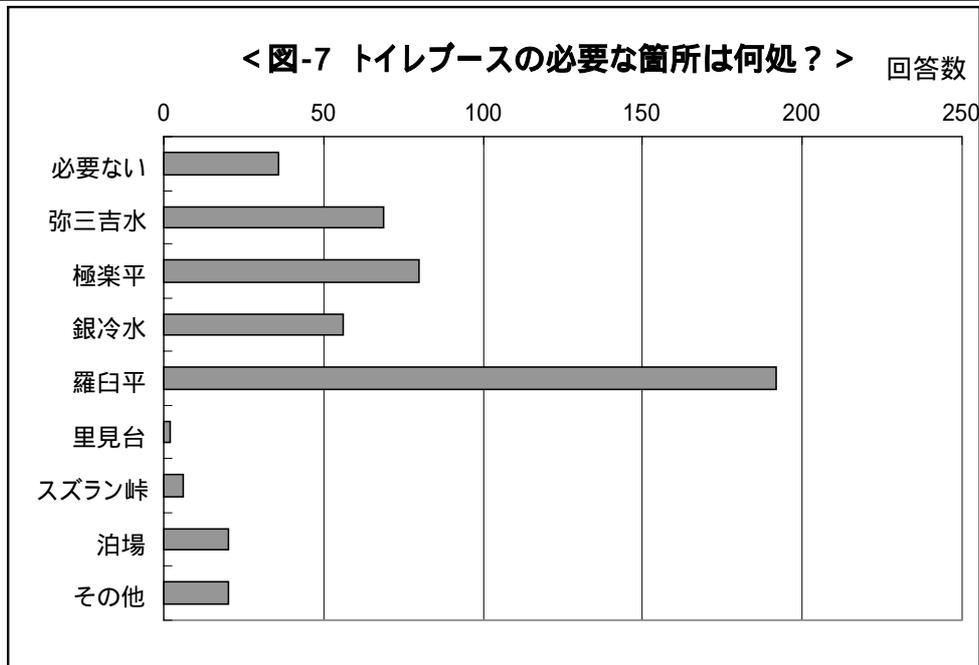
携帯トイレを自分で実際に持参したのは約4割で、入手も現地での購入がある程度あったことが分かった。



回答者の13%が実際に携帯トイレを使用して用をたし、46%は携帯トイレを使用せずに用をたした事が分かった。合わせて登山者の6割が登山中に用便の必要があったことになる。
用をたした場所は、携帯トイレ使用・不使用に関係なく、羅臼平が一番多く、ついで銀冷水、極楽平の順であった。羅臼側の登山道では回答人数も少なく用をたした人は少なかった。

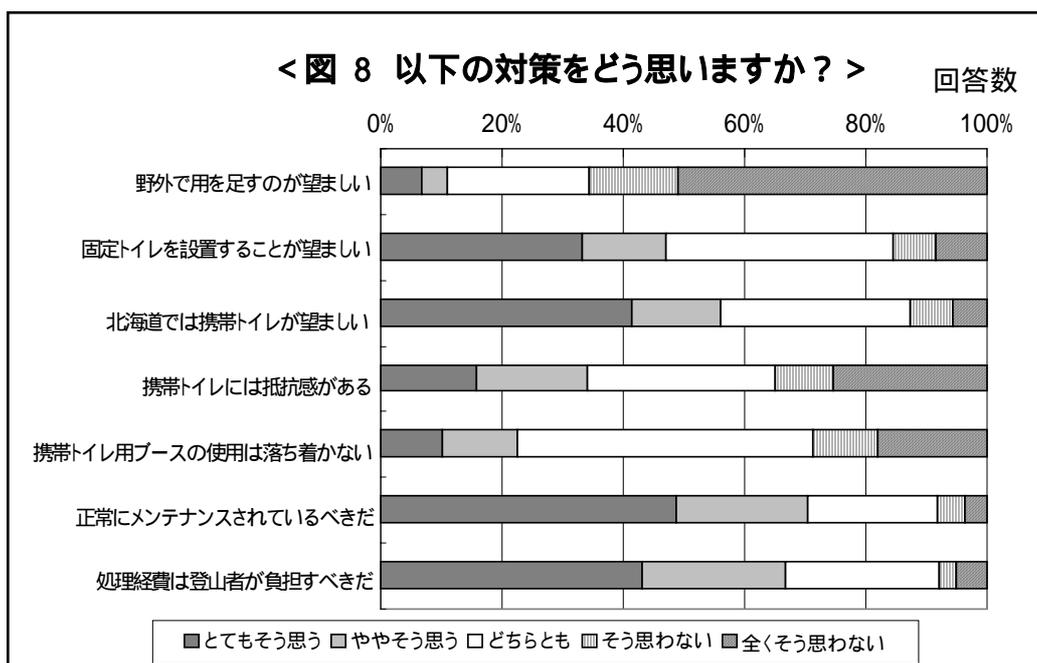


携帯トイレブースの設置に関しては、多くの登山者が、羅臼平、極楽平、弥三吉水の場所でトイレブースの設置を望んでいた。



山岳トイレに対する今後の対策に関しては、多くの人が無らかのトイレに関する対策を望んでいる。さらに、「北海道では携帯トイレが望ましい」と答えた人が「固定トイレが望ましい」と答えた人より割合で上回っている。これは携帯トイレに対する抵抗感や使用の不快感が比較的少ないこととも合致している。

携帯トイレの使用に当たっては、正常にメンテナンスされていることを望む声が多く、またそのための処理経費は登山者が負担しても良いと考えている人が6割以上いることが分かった。



2. 有識者への携帯トイレに関するヒアリング調査結果

< 調査方法 >

* 5名の有識者にヒアリング調査を実施。ヒアリングは面談や電話方式を採用。

- 愛甲 哲也氏 (北海道大学大学院農学研究院准教授、北海道山のトイレを考える会、利尻山及び大雪山登山道検討委員)
- 庄子 康氏 (北海道大学大学院農学研究院准教授、大雪山登山道検討委員)
- 滝沢 大徳氏 (斜里町在住山岳ガイド、山考舎代表)
- 石田 理一郎氏 (羅臼町在住山岳ガイド、北の番屋代表)
- 横須賀 邦子氏 (江別市在住山岳ガイド、山のトイレを考える会代表、アースアンドウィンド代表、大雪山登山道検討委員)

* ヒアリング内容は、「本年の携帯トイレの利用促進の効果」、「利用の促進に関する意見」、「携帯トイレのブースの設置場所」など。

< 調査結果 >

知床連山におけるトイレ状況に関するヒアリング結果一覧 (抜粋)

質問1) 知床連山を通してトイレで気になる地点と場所について教えてください。
* 木下小屋～羅臼岳(複数より回答あり)・・・オホーツク展望台、弥三吉水(奥の谷、流れに沿った道筋あり)、銀冷水(谷の奥と手前側)、極楽平(広くて目立たないがある)、羅臼平の周辺(ケルン脇ハイマツの中、羅臼側の登山道に20m下った北側、踏み跡が気になる)。
* 羅臼～羅臼岳(複数より回答あり)・・・岩清水から羅臼岳の場所。
* 連山では三峰と二つ池のキャンプ場の周辺(複数より回答あり)・・・三峰はフードロッカー(FL)付近にしている。二つ池では(FL)の奥までトイレ道が続いている。第一火口付近は少ない。
質問2) 知床連山での携帯トイレの使用に関して、ガイドをしたお客の反応、及びガイドなしの一般の利用者からの意見を聞いていれば教えてください
* 今夏登山口で意識調査をした際に、直接聞き取りした登山者からは概ね好意的な評価を聞いた。
* 客層によって反応は違う。ツアー客は中・高齢者で山経験があり携帯トイレを渡すが、使わず我慢する傾向がある、お願いしても20人に5人程度の使用状況と思う。ガイドを使う2-3人の個人客は、初心者が多く、30人くらいに渡して殆ど使ってもらえる。特に若い個人客は携帯トイレが珍しいのか楽しんで使っているようだ。
* ツアー会社の質(=ガイドの意識)によりけって携帯トイレの普及度がずいぶんと

<p>違うと思う。</p>
<p>* ガイドなしの客は殆ど使っていないと思う。それは下山して回収ボックスを見ても空のことが多いから推定できる。</p>
<p>質問3) 知床では本年度から実施しました連山における携帯トイレの利用促進に関して効果があがっているとお考えですか。</p>
<p>* 登山者の多くは、事前に知っていたようで、広報がうまくいったのではないかと考える。ただし、外国人はほとんど知らなかったようである。英語のポスターやパンフも必要と思う。</p>
<p>* 未だ利用促進の効果は見られていないと思う。ホテルフロントに掲示してあるが、宿泊者に積極的な紹介はされていないようであるし、廃棄箇所が少なく、岩尾別登山口トイレ横にあるが見過ごしている人が多いと思う。目立つ表示が必要。</p>
<p>* 一番効果のあったのは羅臼のガイドとそのお客ではないか。ウトロ側ではガイドが以前から使用していたが、羅臼側では今年から使い始めたのが現状。</p>
<p>* 今年の北海道山岳ガイド協会の知床での受け入れ体制(ガイドに通知)も素早くPRとしては効果があったと思う。一方では個人客へのPR不足感は否めない。</p>
<p>質問4) 連山における携帯トイレの利用が阻害される原因は何だとお考えですか？また、利用の促進を進めるには何が必要でしょうか？</p>
<p><携帯トイレ利用の阻害原因></p> <p>* 携帯トイレ用ブースがないことが最大の阻害要因。</p>
<p>* 携帯トイレを使ったことがない人のための広報が少ないように思う。買ったはいいが、どう使ってよいか分からないのでは？外国語のパンフもない。</p>
<p>* 廃棄箇所が少なくその場所表示が見られない。岩尾別コース登山口はトイレの横に廃棄箇所がありこれを意識して見る人が少ない。</p>
<p>* 個人客(非組織登山者)に対する対策がない。</p>
<p><利用の促進について></p> <p>* 携帯トイレ専用ブースを羅臼平、弥三吉水、銀冷水、三峰野営地に設置する(複数</p>

から回答あり)。
* 携帯トイレの販売店、設置場所、廃棄箇所を紹介するマップを作成する。
* パンプを使って携帯トイレの使い方、使用から廃棄の手順、それに対する価格設定などの説明も必要(複数から指摘あり)。
* 販売と回収がセットになっていると効果的だと思う。
質問5) 連山での携帯トイレのブースを設置するとしたら、知床連山ではどの地点のどの場所が良いとお考えですか？
* 羅臼平(5人回答)、弥三吉水(3人回答)、銀冷水(4人回答)、三峰(2人回答)、二つ池(2人回答)、第一火口(2人回答)。
* 設置場所の組み合わせとして、ウトロから羅臼平の間は、第一案として弥三吉(道程1/3)+銀冷水(道程2/3)、第二案が極楽平(中間地点)に1箇所。個人的に推奨案は2案目で、設置するなら「中間地点にトイレあり」などの告知をすれば我慢してそこまでいけるのではないか。
* 羅臼平にはトイレ(ブースでなく施設としてのトイレ)が必要と考えている。これは単にトイレというだけでなく、ここから日帰り利用者と縦走利用者を分けるゲート施設としての位置づけもあると思う。
* 羅臼側の登山道には不要のような気もするが、ウトロ側とのバランスを考えれば泊場か屏風岩あたりが候補地となると思う。
質問6) 他の山岳地域でも携帯トイレの利用がありますが、他の地域と比べて何か参考になることがありましたら教えてください。
* 携帯トイレブースの場所や廃棄箇所がどこの地点にあるか事前に知らせることが必要。利尻はこれらを明確に示して登山者は本州から携帯トイレを購入して島入りしている。

<有識者へのヒアリングまとめ>

連山の登山道において、トイレの問題箇所として認識されているのは、オホーツク展望台、弥三吉水、銀冷水、極楽平、羅臼平、岩清水、三峰、二つ池などの野営指定地や休憩ポイントであった。

携帯トイレの使用に対する利用者の認識に関しては、有識者の間で意見のばらつきがある。何人かの有識者の意見では、登山者の携帯トイレの使用に関する意識としては、ガイド付登山者の方がガイドなしの登山者もより理解があるとしている。一方、ある有識者は、ガイドなしの個人客の方が携帯トイレの利用をしているとの認識を示した。

本年度の知床での携帯トイレ普及活動の効果については、「効果があった」と考える有識者がいる一方で、「あまり効果が出ていない」とする有識者もあり、ここでも評価は分かれた。

知床連山における携帯トイレの阻害要因として、携帯トイレブースがないことや、回収ボックスの場所が分かりにくいこと、一般登山者への広報についてはまだ不十分であることを、全ての有識者が指摘した。

携帯トイレの利用の促進については、トイレブースの設置、携帯トイレに関する情報マップ作成、広報の充実などの提案があった。

知床連山での携帯用トイレブースの設置箇所としては、羅臼平（5人回答）、弥三吉水（3人回答）、銀冷水（4人回答）、三峰（2人回答）、二つ池（2人回答）、第一火口（2人回答）などの意見があった。これは先の利用者へのアンケート結果とも一致している。

先行事例も含めて提言されたのは、携帯トイレの販売～使用（ブース）～回収までのシステムの構築及び普及啓発のための広報を行うことなどであった。

3. アクティブレジャーによる現況把握調査

< 調査方法 >

* 環境相アクティブレジャーが平成 20 年 7 月～9 月の各月 1 回の計 3 回、登山道を巡回して排泄別の発生や処理（残置）状況調査を実施。

* 調査項目は書く場所での尿尿やティッシュなどの残置今日今日などの把握。

< 調査結果 >

7 月～9 月の 3 回の調査で確認された残置物数

オホーツク展望-弥三吉-銀冷水-極楽平-羅臼平

場所	オホーツク展望	弥三吉水	極楽平一帯	銀冷水	羅臼平
放置個数					
1. 紙	5 ケ	46 ケ	14 ケ	35 ケ	83 ケ
2. 尿尿	2 ケ	35 ケ	7 ケ	23 ケ	41 ケ
3. 携帯トイレ	0 ケ	0 ケ	0 ケ	0 ケ	1 ケ
放置個数計	7 ケ	81 ケ	21 ケ	58 ケ	125 ケ

里見台-泊場-屏風岩-岩清水-羅臼岳

場所	里見峠	泊場	屏風岩	岩清水付近	羅臼山頂付近
放置個数					
1. 紙	0 ケ	0 ケ	0 ケ	1 ケ	0 ケ
2. 尿尿	0 ケ	0 ケ	0 ケ	1 ケ	0 ケ
3. 携帯トイレ	0 ケ	0 ケ	0 ケ	0 ケ	0 ケ
放置個数計	0 ケ	0 ケ	0 ケ	2 ケ	0 ケ

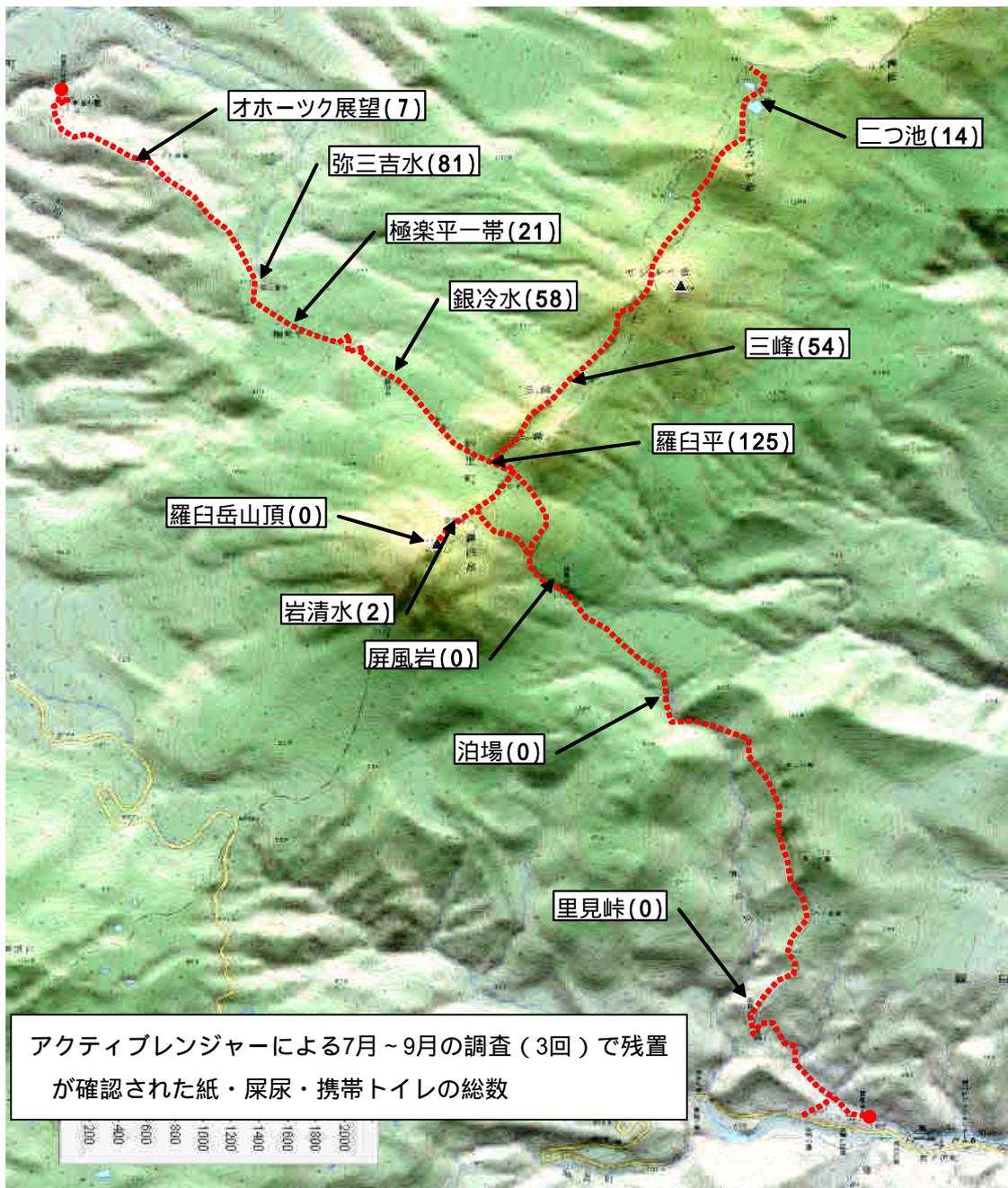
三峰-二つ池

場所	三峰付近	二つ池付近
放置個数		
1. 紙	32 ケ	10 ケ
2. 尿尿	21 ケ	4 ケ
3. 携帯トイレ	1 ケ	0 ケ
放置個数計	54 ケ	14 ケ

* 確認回数は 3 回の調査中に確認された回数であり、「-」は確認されていないことを示す。
* 放置個数は 3 回の調査で確認された合計数。

3 回の調査で確認された残置物数まとめ

場所	オホーツク展望	弥三吉水	極楽平一帯	銀冷水	羅臼平
紙・尿尿・携帯トイレの放置個数	7 ケ	81 ケ	21 ケ	58 ケ	125 ケ
場所	里見峠	泊場	屏風岩	岩清水付近	羅臼山頂付近
紙・尿尿・携帯トイレの放置個数	0 ケ	0 ケ	0 ケ	2 ケ	0 ケ
場所	三峰付近	二つ池付近			
紙・尿尿・携帯トイレの放置個数	54 ケ	14 ケ			



<アティブレジャーによる現地調査結果まとめ>

連山における尿尿の実態として、岩尾別登山口から羅臼平に掛けて多くの紙・尿尿などが確認された。羅臼平では毎回一番多く確認された。

羅臼側の登山ルートではほとんどそれらは確認されなかった。

三峰野営指定地と二つ池野営指定地についても、尿尿などの残置が毎回の調査で確認された。

これらの現況調査結果は、アンケート調査や有識者へのヒアリング調査の結果と一致していた。

4. 平成 20 年度における携帯トイレ利用推進活動結果

< 活動概要 >

* 平成 20 年度の 7 月～10 月中旬にかけて、環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町の 5 機関が連携して、知床連山における携帯トイレの利用推進を実施。

* 以下の役割分担。

斜里町と羅臼町：携帯トイレの現地販売体制の整備。使用済み携帯トイレの回収・処理。

北海道：携帯トイレ使用に向けた普及対策としてパンフレットやポスターの作成・配付。

環境省：使用状況等に関する現地調査・アンケート調査、職員巡視の際の普及活動。

林野庁：職員巡視の際の普及活動。

< 活動結果 >

平成 20 年度 携帯トイレ販売と回収実績（羅臼町及び斜里町より聞き取りした結果）

No	【羅臼側】	販売数	回収数	備考 1
1	知床国立公園羅臼温泉野営場	18 個		期間は 6/25～10/10
2	羅臼ビジターセンター	30 個		期間は 6/25～10/10
3	むらたスポーツ	5 個		期間は 6/25～10/10
	計	53 個		

No	【斜里側】	販売数	回収数	備考 1
1	木下小屋	70 個	57 個+	販売数は 7/1-9/30 回収で 8 月中旬以降未集計あり
2	ホテル地の涯	248 個	147 個+	販売数は 7/初旬-9/初旬、回収で 9 月以降未集計あり
3	知床自然センター	122 個		7/1-9/30
4	岩尾別ユースホステル	180 個		6-10 月の概算での数字
5	ウト口道の駅	13 個		7 月～10 月
6	知床野営場	1 個		6/20～9/15
	計	634 個	204 個+	

* 羅臼側は一般ゴミとして回収したので、個数は不明。

* 斜里側は木下小屋とホテルの 2 ヶ所で回収ボックス設置。

本資料は、環境省 釧路自然環境事務所殿の許可を得て、インターネットサイト「知床データセンター」収録データの内の会議資料より承諾を頂いて転載したものである。